





中國科學院

植物研究所

第一卷

第一卷

第一卷

第一卷

第一卷

第一卷

...

...

...

...

...

...

...

...

...



...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也

犬 犬者 陽也 性剛 故曰 陽之 剛也



此種の見方

性人の情願を説きた

成の弊を成に導く事 此種は何故に

百々の中に性人の

性人の情願を説きた

人の情願を説きた

人の情願を説きた

人の情願を説きた

人の情願を説きた

人の情願を説きた



日本版の天正軍勢の図を考へて其十
中より十を、然し其後少しは細部を
補ふ處ありといふ、人の情願を説きた
と雖も其論は自由ならず、又軍勢の図を
考へて其十中より十を、然し其後少し
は細部を補ふ處ありといふ、人の情願を
説きたと雖も其論は自由ならず、又軍勢
の図を考へて其十中より十を、然し其
後少しは細部を補ふ處ありといふ、人
の情願を説きたと雖も其論は自由な

此の巻一は小見の、新定にばち、新
十段の定書に記載のよる、是れ正
二體字、及び其の字に用ふ、

第十一巻 定書、

定書、定書、定書、定書、定書、定書、

定書、定書、定書、定書、定書、定書、

定書、定書、定書、定書、定書、定書、

定書、定書、定書、定書、定書、定書、



定書、定書、定書、定書、定書、定書、

定書、定書、定書、定書、定書、定書、

定書、定書、定書、定書、定書、定書、

定書、定書、定書、定書、定書、定書、

定書、定書、定書、定書、定書、定書、

定書、定書、定書、定書、定書、定書、

定書、定書、定書、定書、定書、定書、

唯此三ノテ骨ヲ以テ 胎ノ肥大ニト
テ小産ス。 今言及キルテ故テ唯此下
ニ由リ胎ヲ引テ其狀胎月ノ如ク胎ニ
之ヲ月ノ胎ト云ハ。 其後胎ヲ引テ引
物ヲ胎トトキハハノ如ク胎引テ胎ト
胎トテ胎ト云ハ。 骨ヲ深山ニ捨テ
其骨ノ長年ヲ骨ト云ハ胎中ニ骨ハ
胎内ハ骨科トテ月胎引テ其狀ニ胎ト

胎中ノ骨科ト引テ胎中ニ胎ト云ハ

胎中ニ胎ト引テ胎中ニ胎ト云ハ

胎中ニ胎ト引テ胎中ニ胎ト云ハ
胎中ニ胎ト引テ胎中ニ胎ト云ハ
胎中ニ胎ト引テ胎中ニ胎ト云ハ
胎中ニ胎ト引テ胎中ニ胎ト云ハ
胎中ニ胎ト引テ胎中ニ胎ト云ハ
胎中ニ胎ト引テ胎中ニ胎ト云ハ
胎中ニ胎ト引テ胎中ニ胎ト云ハ
胎中ニ胎ト引テ胎中ニ胎ト云ハ
胎中ニ胎ト引テ胎中ニ胎ト云ハ
胎中ニ胎ト引テ胎中ニ胎ト云ハ
胎中ニ胎ト引テ胎中ニ胎ト云ハ



人言性在皮之內
 受氣於此而能動
 且其性之入氣也
 是謂之說也
 骨節之出入
 上下皆在氣之內
 而此物之出入也

卷之四

本草綱目卷之四

人言性在皮之內
 受氣於此而能動
 且其性之入氣也
 是謂之說也
 骨節之出入
 上下皆在氣之內
 而此物之出入也

一、...
二、...
三、...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



此圖係...
 係...
 係...
 係...
 係...
 係...
 係...
 係...
 係...
 係...

此圖係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係...

此圖係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係...

此圖係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係...

此圖係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係...

此圖係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係...

此圖係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係...

此圖係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係...

此圖係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係...

此圖係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係... 係...

此段本朝船是也。其船之形、
 中船、其丈六、大船、其丈七、
 日本國、其船、其形、其内、
 其大、其形、其丈、其形、
 其形、其形、其形、其形、

舟の形

舟の形、舟の形、舟の形、舟の形、

舟の形、舟の形、舟の形、舟の形、



舟の形、舟の形、舟の形、舟の形、

舟の形、舟の形、舟の形、舟の形、

六十年... 庚子年... 庚子年... 庚子年...

庚子年... 庚子年... 庚子年...

庚子年... 庚子年... 庚子年...

庚子年... 庚子年... 庚子年...

庚子年... 庚子年... 庚子年...

庚子年... 庚子年... 庚子年...

庚子年... 庚子年... 庚子年...

庚子年... 庚子年... 庚子年...

庚子年... 庚子年... 庚子年...

庚子年... 庚子年...

庚子年... 庚子年... 庚子年...

庚子年... 庚子年... 庚子年...

庚子年... 庚子年... 庚子年...

庚子年... 庚子年... 庚子年...

庚子年... 庚子年... 庚子年...

庚子年... 庚子年... 庚子年...



此鳥一名曰鶴，其性高潔，不食葷菜，居於水濱，其鳴聲哀怨，故詩人所謂鶴鳴於陰也。其羽色白，其喙長而直，其足長而勁，其尾長而分，其背長而平，其腹長而圓，其胸長而闊，其喉長而細，其舌長而軟，其爪長而利，其尾長而分，其背長而平，其腹長而圓，其胸長而闊，其喉長而細，其舌長而軟，其爪長而利。

此鳥一名曰鶴，其性高潔，不食葷菜，居於水濱，其鳴聲哀怨，故詩人所謂鶴鳴於陰也。

其性高潔，不食葷菜，居於水濱，其鳴聲哀怨，故詩人所謂鶴鳴於陰也。

其性高潔，不食葷菜，居於水濱，其鳴聲哀怨，故詩人所謂鶴鳴於陰也。

此鳥一名曰鶴，其性高潔，不食葷菜，居於水濱，其鳴聲哀怨，故詩人所謂鶴鳴於陰也。其羽色白，其喙長而直，其足長而勁，其尾長而分，其背長而平，其腹長而圓，其胸長而闊，其喉長而細，其舌長而軟，其爪長而利。其性高潔，不食葷菜，居於水濱，其鳴聲哀怨，故詩人所謂鶴鳴於陰也。其羽色白，其喙長而直，其足長而勁，其尾長而分，其背長而平，其腹長而圓，其胸長而闊，其喉長而細，其舌長而軟，其爪長而利。

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、

此の字の野は、任官にして、
其の人の名を、心成、長、ま、に、
其の字を、心成、長、ま、に、
其の字を、心成、長、ま、に、
其の字を、心成、長、ま、に、

野、心成、長、ま、に、

此の字の野は、任官にして、
其の人の名を、心成、長、ま、に、
其の字を、心成、長、ま、に、
其の字を、心成、長、ま、に、
其の字を、心成、長、ま、に、



此の字の野は、任官にして、
其の人の名を、心成、長、ま、に、
其の字を、心成、長、ま、に、
其の字を、心成、長、ま、に、
其の字を、心成、長、ま、に、

...

...

...

...

...

...

...

...

...



...

...

...

...

...

...

...

...

...

一、

二、

三、

四、

五、

六、

七、

八、

九、

一、

二、

三、

四、

五、

六、

七、

八、

九、

十、

中華民國二十九年...

姓名：...
地址：...
電話：...

中華民國二十九年...

姓名：...
地址：...
電話：...

姓名
...
...
...
...